



# 東亜同文書院大学から愛知大学へ

## 松本展示会・講演会

松本が生んだ小岩井 浄 ～書院教授から愛知大学長へ～

2015年10月1日(木) - 4日(日)  
松本市美術館 2階多目的ホール

開館時間 午前9時 - 午後5時  
(入館は4時30分まで)

入場無料・予約不要

住所 松本市中央4丁目2番22号 TEL (0263) 39-7400  
・JR松本駅から徒歩12分  
・JR松本駅からタウンスニーカー(市内周遊バス)  
南コース5分「市民芸術館西」下車徒歩3分

講演会 10月4日(日) 2階多目的ホール

展示会 10月1日(木) - 4日(日)

- 13:00～13:15 ごあいさつ  
佐藤 元彦 [愛知大学長]
- 13:15～14:00 講演1 「小岩井先生と松本」  
小松 芳郎 [松本市文書館特別専門員・前同館館長]
- 14:15～15:00 講演2 「小岩井先生との思い出」  
可児 光治 [愛知大学文学部文学科(昭和33年)卒  
・元東邦高校教諭]  
祖父江 哲一 [愛知大学法経学部経済学科(昭和37年)卒  
・松本市歴史の里あゆみの会(ガイドボランティア)代表  
・松本革新懇代表世話人]  
熊谷 達三 [愛知大学法経学部経済学科(昭和31年)卒  
・元トワ物産名古屋事業所長]
- 15:00～16:00 講演3 「東亜同文書院大学から愛知大学へ  
～小岩井浄と本間喜一～」  
三好 章 [愛知大学東亜同文書院大学記念センター長  
・愛知大学現代中国学部教授]

東亜同文書院は、1901(明治34)年、東亜同文書院大学によって中国上海に創立し、1939(昭和14)年に大学に昇格。国際社会に貢献する人材養成を目的に、戦前海外に設けられた日本の高等教育機関としては最も古い歴史をもち、約5,000名の卒業生を輩出しました。

1945(昭和20)年、東亜同文書院大学は半世紀にわたる歴史の幕を閉じ、翌1946(昭和21)年11月、最後の学長であった本間喜一(愛知大学第二・四代学長)、小岩井浄(第三代学長)を中心に、愛知大学は創立されました。

「東亜同文書院大学から愛知大学へ」松本展示会・講演会は、横浜、東京、弘前、福岡、神戸、シカゴ、京都、米沢、名古屋、富山、那覇、長崎、岐阜、広島に続く15番目の開催です。

先行パネル展：9月9日(水) - 9月30日(水) あがたの森文化会館(旧松本高等学校) 本館 / 復元校長室

お問い合わせ / 愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1  
TEL 0532-47-4139 FAX 0532-47-4196 E-mail: Toa@ml.aichi-u.ac.jp

主催 / 愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
後援 / 松本市教育委員会 一般財団法人霞山会 公益財団法人愛知大学教育研究支援財団







### 映像アーカイヴズ

東亜同文書院から愛知大学の歩み  
「21世紀にはばたく真の国際人の育成」



こちらのQRコードを読み取り、ぜひご覧下さい。

# 知を愛し、世界へ。

## 東亜同文書院大学から愛知大学へ

1901(明治34)年、近衛篤磨(貴族院議長)や根津一らが日本最初の海外高等教育機関として中国上海にビジネススクールを設立した。それが東亜同文書院(1939年に大学に昇格)である。アジア支配を進めていた西欧列強に対抗するため、日中両国の経済提携と善隣友好の促進をめざし、画期的なビジネス実践教育システムが設定された。

その一つは、自力で実務をこなせるだけの中国語と英語の習得。もう一つは、実務にとどまらず貿易取引の仕組みや商品などの調査をとおして中国の現実を知り、中国人への理解を深める大調査旅行であった。

1945(昭和20)年、敗戦とともに東亜同文書院大学は45年で幕を閉じた。最後の学長、本間喜一は、後継校地を日本国内に探すことを指示する一方、東亜同文書院(大学)卒業生・在学生5,000名の学籍簿・成

績簿を教職員・学生の個々のリュックサックに入れて持ち帰らせた。

こうして1946(昭和21)年11月15日、愛知大学は本間喜一、小岩井浄、神谷竜男、木田彌三旺をはじめとした東亜同文書院大学関係者が中心となり、愛知県豊橋市の旧陸軍第15師団跡地に、中部地区で唯一の旧制法文系総合大学として設立された。そして、東亜同文書院(大学)の学籍簿・成績簿も保管された。

愛知大学の「愛知」は、「智=知を愛する者が集う」を意味し、設立趣意書には、戦後創立された日本の大学としては画期的な「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」が明記されている。新たな時代への決意とロマンが示されている。



大学記念館 展示室案内  
ナビゲーター 佐藤元彦 学長



こちらのQRコードを読み取り、ぜひご覧下さい。

愛知大学記念館  
(国の登録有形文化財)





# 愛知大学



はやし きろく  
**林毅陸** [1872-1950]

ほんま きいち  
**本間喜一** [1891-1987]

こいけ きよし  
**小岩井浄** [1897-1959]

<東亜同文書院時代>

東亜同文会理事  
慶応義塾総長

<東亜同文書院時代>

東亜同文書院大学学長

<東亜同文書院時代>

弁護士  
上海経済研究所副所長  
東亜同文書院大学教授

<愛知大学設立後>

初代学長 (1946-50年)

<愛知大学設立後>

第2代学長 (1950-55年)  
最高裁判所初代事務総長  
第4代学長 (1959-63年)

<愛知大学設立後>

第3代学長 (1959-63年)

年	東亜同文書院大学史
1890	日清貿易研究所 設立 (書院の原形となる)
1898	東亜同文会成立、会長近衛篤磨貴族院議長
1901	東亜同文書院 中国上海に設立
1907	5期生より中国調査旅行開始
1926	近衛文麿、東亜同文書院院長に就任 (~1931)
1931	作家・魯迅が東亜同文書院で講義
1936	林毅陸、東亜同文会理事に就任
1939	東亜同文書院大学に昇格
1940	本間喜一、東亜同文書院副院長兼教授に就任 小岩井浄、上海経済研究所副所長に就任
1942	小岩井浄、東亜同文書院大学講師に就任
1944	本間喜一、東亜同文書院大学長に就任 小岩井浄、東亜同文書院大学教授に就任
1945	<b>東亜同文書院大学 創立45年</b> 敗戦により閉校
愛知大学史	
1946	愛知大学 豊橋市の旧陸軍第15師団跡地に 創立(豊橋校舎) 旧制大学令により林毅陸、初代学長に就任 本間喜一、愛知大学理事に就任 小岩井浄、教授に就任
1947	本間喜一、最高裁判所初代事務総長に就任 予科開設、法経学部 設置
1948	国際問題研究所 設立
1949	文学部 設置
1950	名古屋分校(車道キャンパス) 開校 短期大学部 設置

1950	本間喜一、最高裁判所初代事務総長を辞任 本間喜一、愛知大学第2代学長に就任
1951	総合郷土研究所 設立
1953	中部地方産業研究所 設立
1955	小岩井浄、愛知大学第3代学長に就任 華日辞典編纂処 設置 (現、中日大辞典編纂所)
1959	本間喜一、第4代学長就任
1962	経営会計研究所 設立 (現、経営総合科学研究所)
1968	『中日大辞典』初版刊行 (現在は第3版)
1988	名古屋キャンパス(みよし市)開校 ※名古屋分校から移転
1989	法学部、経営学部、経済学部 設置 (法経学部から改組)
1993	東亜同文書院大学記念センター 設立
1994	大学院のなかに日本初の、中国研究科 設置
1997	現代中国学部 設置
1998	国際コミュニケーション学部 設置
2002	国際中国学研究センター(ICCS) 設立
2004	車道新キャンパス開校 三遠南信地域連携センター 設立 (現、三遠南信地域連携研究センター)
2006	愛知大学孔子学院 設立
2011	地域政策学部 設置
2012	名古屋新キャンパス(名古屋市中村区) 開校 ※名古屋キャンパス(みよし市)から移転
	国際ビジネスセンター 設立
2015	人文社会学研究所 設立
2016	<b>愛知大学 創立70周年</b>





# 東亜同文書院大学

愛知大学の前身ともいえる東亜同文書院大学をはじめ、中国の革命家・孫文に関する資料を展示



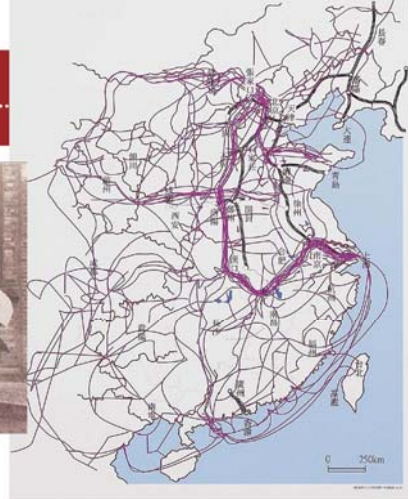
**荒尾 精**(1859~1896年)  
1890年、東亜同文書院の前身にあたる日清貿易研究所を上海に開設。



**近衛篤磨**(1863~1904年)  
近衛文磨の実父。貴族院議長、東亜同文会会長。東亜同文書院設立の構想を打ち出し、当初南京に開校した。



**根津 一**(1860~1927年)  
日清貿易研究所の運営に携わり、近衛篤磨に協力して東亜同文書院設立に尽力。院長も務めた。



## 大旅行

東亜同文書院では卒業年度になると3~5人のグループごとに中国大陸各地へ3~5ヶ月におよぶ徒歩中心の調査旅行が行われた。(現在の大学2、3年生)  
卒業論文となった「調査報告書」(写真左)、日記体の記録「大旅行誌」は当時の中国を知る貴重な資料となっている。



**孫文と山田純三郎**  
山田純三郎は、兄の良政亡き後、東亜同文書院教員を経て、孫文の側近として活躍。



## 東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿

敗戦・閉校にともない、本間らの苦心により接収を免れ、何よりも優先して上海から教職員、学生が持ち帰ったもの。



# 愛知大学

創成期から現在の愛知大学に至るまでに蓄積されてきた、多くの史資料の中でも代表的なものを展示

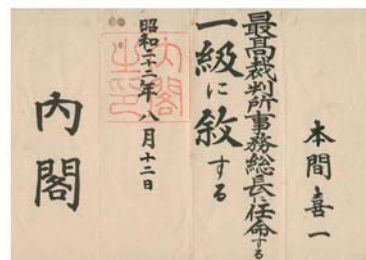


**本間喜一**  
(1891~1987年)  
東亜同文書院大学最後の学長(第3代/1944~1945年)。戦後は愛知大学第2代・第4代学長。



## 愛知大学設立認可書

東亜同文書院大学最後の学長であった本間喜一が1946(昭和21)年3月に帰国し、同年8月1日申請、同年11月15日に認可されるというスピードであった。これには当時文部大臣であった田中耕太郎(第一高等学校・東京帝国大学時代の同級生で親友)の存在が欠かせなかった。



## 最高裁判所事務総長 辞令

戦後の新憲法施行に伴い最高裁判所が発足、そして三淵忠彦最高裁判所長官の指名により初代最高裁判所事務総長に就任した。



## 中日大辞典

日中国交正常化前に東亜同文書院作成の華日辞典原稿カード14万枚が中国から愛知大学に返還、1968年日本で初めて刊行された。



## 平松礼二「日本の新しい朝の光」(2003年)

平松は1964年愛知大学を卒業し、2000年から10年間『文藝春秋』の表紙を担当した日本画家。



## 東松照明

「皮肉な誕生」(1951年)  
東松は1954年愛知大学を卒業し、晩年は沖縄を拠点にした写真家。本作品は在学中に撮影された。



創成期(1946年)豊橋校舎

愛知大学記念館(旧本館)  
(文化庁登録有形文化財)

愛知大学公館

旧名古屋校舎(三好)

車道校舎

名古屋校舎  
(2012年4月開校)



## 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 Ⅸ0532-47-4139 <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/index.html>  
《交通アクセス》豊橋駅より豊橋鉄道渥美線で5分愛知大学前駅下車